



会長 関

茨城県
副知事

正対×談 山口 やちゑさん

関正夫氏が、昭和59年に茨城県社会福祉協議会の会長に就任してから30年を迎えた。茨城県社会福祉協議会は、社会福祉活動を推進する民間の組織であり、「県社協」の略称でも親しまれている。一方で、行政の支援も受けている公共性や公益性の高い組織である。茨城県副知事の山口やちゑさんと県社協会長の関正夫さんに、県民たれもが安心して暮らせる福祉のまちづくりについて語ってもらった。

(聞き手は小田部卓茨城新聞社社長)

茨城県社会福祉協議会 関正夫会長 就任30年記念特別対談

安心して暮らせる福祉のまちづくり



小田部 関会長、県社協の会長に就任されて30年、誠におめでとうございます。これまでの30年を振り返つていかがでしょうか。

関 就任した翌年の昭和60年に「市で国際科学技術博覧会が催されました。多くのボランティアの方が活動されましたが、1日の終わりに「場」を設け、国の大會役員や知事さんなどからボランティアの皆さんに、その日の無事に対する感謝の言葉をかけていただいたことがあります。

一方、その間に平成7年1月には阪

課題と施策

県社協の試み

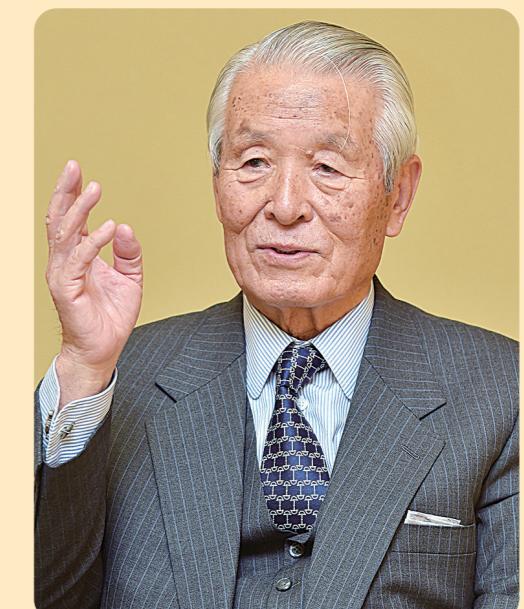
「チャレンジネットワーク運動」として平成10年から行っています。この運動では地域住民の居場所である「サロ」づくりを進めています。現在は約1,000カ所あります。

県協では、地域の生活課題の共有化や、その解決のための活動を身近な地域や団体から広げる運動を「ばんど」と名づけています。

神・淡路大震災が発生し、その後も台風、地震、噴火など全国各地で毎年ににおける理解と参加の輪が広がり、県内におけるボランティア元年とも言われる所似かと思っています。

平成3年には県民の福祉活動への支援等の拠点として現在の県総合福祉会館が開館し、ここに移転しました。地域における支え合いの組みづくりとその実践に努める他、介護保険制度の導入による福祉人材の需要の増加等に対応し、必要な支援を行っていますが、地域社会において民間の自主的な福祉活動の中心となる県協の取り組みをお聞かせください。

一方、その間に平成7年1月には阪神・淡路大震災が発生し、その後も台風、地震、噴火など全国各地で毎年に自然災害が発生、特に平成23年3月には東日本大震災があり、人のつながり・絆・地域福祉の必要性などが再認識されました。これより私は会長に就任してから30年間多くの出来事がありました。まさに地域社会の脆弱化が深刻となつてきている中、県協の期待が変化していく感じしています。



茨城県 副知事 山口 やちゑさん

やまぐち・やちえ
知事公室秘書課長、知事公室長、保健福祉部長を経て現在に至る。

せき・まさお
元下館市(現筑西市)社会福祉協議会会長。関商事代表取締役会長の他、全国石油商業組合連合会会長、茨城県社会福祉審議会委員長などを務めます。

今後の抱負

小田部

関会長の今後の抱負をお聞かせください。

せきだい。

せきだい。